

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472400219		
法人名	有限会社 母家介護センター		
事業所名	グループホーム母家		
所在地	大分市大字志生木2466-1		
自己評価作成日	令和4年6月6日	評価結果市町村受理日	令和4年7月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

永続勤務者が多かった母家ですが、去年から今年にかけて、家族の介護や自身の体調などで3名の退職者がありました。寂しいですが、新しい職員は、同一法人からの移動なので、介護の基本方針はおなじです。ご利用者には安心して過ごしていただいていると思います。介護職員の高齢化や圧倒的かつ慢性的な数の不足等、介護施設の抱える悩みはどこも同じかと思えます。ただ高齢化については見方を変えると、良いことも多いです。その一つは、利用者と年齢が近いことです。同じ時代を生きた人たちの共通認識があるという利点があります。食べ物や考え方の傾向、常識の範囲等、敢えてことばに出さなくても分かり合える部分が多いことは、認知症介護の最もうれしいことのひとつかもしれません。「老い」が輝かしく豊かであるよう頑張ります。

- ・事業所の理念は、認知症の人への理解を深め、一人ひとりの個性を大切にできるケアの在り方が分かりやすくまとめられている。
- ・開設当初より、地域の一員として交流を深めており、利用者とは入居以前から馴染みの関係が築けている。職員も地域に居住する人が多く、その人らしさを大切にしたい支援が行われている。
- ・地産地消を心掛け、季節の食材を生かした手作りの食事を提供している。紫蘇ジュースや切り干し大根づくりなど、馴染みのある手仕事を利用者と一緒に楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「九人に九つの風景」を理念とし、18年間、その実践に向けて、職員、管理者、経営者ともに努力しているところです。	入居者一人ひとりの生活歴や心情を大切にしたいケアの実践を理念に掲げている。管理者と職員は対話を重ねながら、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり、地域の人との交流がめっきりへつている状況ですが、職員に地域の人が多いという利点をいかして、日常的な情報発信ができていると考えています。	電話で介護相談を受けたり、地域ニーズに合わせて配食サービスを行っている。事業所開設時より自治会に加入しており、地域の一員として交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様、コロナ禍にあり、以前のように活発な支援はできにくい状況にありますが、併設の地域密着型通所介護と協働して、介護の方法等の相談に乗っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記同様、コロナ禍のため、直接会議は開催できていませんが、文書を通じて、施設内の様子がわかるよう伝達方法を工夫しているところです。	コロナ禍のため、文書での開催となっている。利用者の日常やケアの取り組み、職員会議での研修内容を発信している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍を無事乗り切れるための工夫など、折に触れ相談させてもらっています。包括支援センターの職員さんとは、配食サービスを行っている関係もあり、日常的な協力関係ができています。	市担当者には、事業所のケアサービスの取り組みを伝えながら、相談やアドバイスをもらっている。丁寧な回答をもらえる等、いつでも相談しやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修会の開催や、日常的な介護現場での疑問点(拘束にあたるかどうか等)を出し合うことで「身体拘束をしない介護」の実践につながるよう努めています。	年2、3回、職員会議の中で、身体拘束をしないケアについて学ぶ機会を設けている。全職員で話し合いを重ね、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	上記に同じです。また夜間は、施設長や事務長が在中し、困りごとの相談に乗る等、虐待を未然に防ぐ体制を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでは、運営推進会議等において、包括支援センターの職員による権利擁護の研修を受ける機会を作ってきましたが、コロナ禍でそれができないため、文書による勉強を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は、家族が安心した心理状態で行えるよう、重要事項の説明後、一定の考慮期間を置くように配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度「介護実施総括表」を家族に送付し、利用者の現状を理解してもらえよう努めるとともに、意見や要望があれば、伝えてもらえるよう呼びかけています。	月1回、入居者の日々の様子やケアの方針等を家族に報告しながら、意見をもらえるよう工夫している。出された意見は全職員で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で、十分な会議が開けない状況ですが、施設長や事務長が、日中、夜間、在中し、職員の意見や提案をできるだけ聞き、運営に反映させるべく努力しています。	会議や日々のケアの中での気づきはその都度、意見を聞いている。施設長や事務長と個別に話す機会も多く、出された意見は検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の高齢化等、配慮すべき課題が多い中、できるだけ身体の負担が少なく済むような体制を整えています。また資格取得に関するバックアップ等、やりがいにつながる取り組みを行っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスおよびキャリアアップ計画書を定め、それに基づき、職員の力量に応じた研修の機会の確保、費用の会社負担等を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、交流の機会がほとんどない状態ですが、他事業所の活動内容などの情報収集を行い、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	同一法人の各事業所から入居に至るケースが多く、時間をかけて信頼関係を築いたうえでのサービス開始となっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上で、例えば通所介護を利用中から、家族との関係性を良好なものとしたうえでの入居というケースが多いです。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	配食サービスや通所介護の利用を通じて、在宅がよいよ厳しくなった方を見極めた上での入居が多いです。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の高齢化や、介護度のアップ等、できることが限られてゆく中で、その時その人にできることを見極めながら、サービスを提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	前掲の「介護実施総括表」を活用しながら、課題があればともに解決していくスタンスでのサービス提供をこころがけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも、関係の継続ができるよう、窓越しの面会や手紙の利用などを呼びかけています。電子媒体の利用はチャレンジしてみましたが、状態の把握の難しい利用者が多く、かえって不穏が増すこともあり、今は行っていません。	生活歴を丁寧に記録し、本人が大切にしてきた馴染みの関係の把握に努めている。感染症対策を考慮しながら、家族や知人との面会を行う等、関係が途切れないよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士のつながりを大切にしつつ、全体でも和やかな雰囲気保てるよう、一人ひとりの気持ちの把握や場面設定などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で、立ち寄る人はいませんが、電話や手紙等よくいただき、交流が続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や認知症の状況など、常に情報の収集を行いながら、利用者の思いと介護の実践がずれないように配慮しています。	地域に暮らし、入居以前より長い付き合いの人が多い。職員は一人ひとりの言葉や思いに寄り添いながら、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前掲の「同一法人の事業所から入居」が多いため、その人の背景は比較的良好に把握できていると思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状況をできるだけ日誌に書き込むとともに、引継ぎもむねいに行い職員間で情報の共有ができるよう務めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年間介護計画書に基づいたサービスが提供できるよう、アセスメント、サービスの実施、検証が行えるシステムを作っています。	アセスメントの項目ごとに、家族に意見を聞き介護計画作成している。日々のケアの実践状況をまとめた総括表を活用して、モニタリングや計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看護師や主治医の意見も取り入れながら、その人の全体像が把握できるよう努めながら、サービスを提供し、プランの見直しにもつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でできることは限られていますが、事情のある家族の負担軽減のために、病院受診の付き添いその他、できる便宜は図るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域の行事がほとんどなくなるなか、回想法を多用し、「コロナが収まったら、あそこにも行こう、こんなこともしよう」と暮らしを支える地域資源の認識が続くよう配慮するとともに、新しい地域資源の情報収集にも努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に、在宅医療を依頼し、本人も家族も安心できる医療の継続が可能よう支援しています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診時に職員が同行したり、訪問診療してくれる医療機関もある。併設事業所の看護職員の協力を得ながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護職員が、全員の状態の把握や、処置を行うとともに、介護記録のチェック、介護職員とのミーティング等、利用者の高齢化、重度化に対応できるよう、協働を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の各病院のソーシャルワーカーと日常的に連絡を取り合い、関係づくり努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関する同意書を交わす際、本人及び家族から重度化やターミナルケアに関する意向を聞くと共に、状況の変化に伴う気持ちの変化にも配慮した対応を行っています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から話し合い同意書を交わしている。状況の変化に応じて、家族と繰り返し話し合っている。看取りの経験も多く、職員など関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍にあり、十分に訓練が行えていないが、過去に行った訓練のイメージトレーニングを各自行うようにしているところ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練を行っています。開所当初より地区消防団や地元住民とも協力関係を築いています。事業所が高台にあり、地盤も堅牢なため、地震、水害などはかえって動かないほうが安全かもしれません。	年2回、昼夜の火災避難訓練を行っている。水害等災害の種類によっては事業所にとどまることも考慮して多めの備蓄品を準備している。地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者も職員も地域の人が多いので、呼称などなれ合いにならぬようお互いに気をつけながら介護を提供しています。	一人ひとりの人格を尊重することを理念にも掲げている。また、職員のメンタル面にも配慮しながら、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に全職員で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	適切な表現ができにくい利用者には、表情や前後の状況等を考慮しながら、真意が掴めるように職員間で情報を共有しています。自己決定がなかなか難しい人には二者択一の方法等も有効です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事時刻等、その人のペースを尊重し、おおまかな時間配分をしています。自室でゆっくり食事を摂りたい人や、朝が苦手な人など様々です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重度化すると、その人が最も楽な服装に段々となってきますが、家族と話し合い、好きだった色や形などできるだけその人らしい服装で過ごせるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も高齢化し、食べなれたものが利用者と変わらないという利点(?)を活かしたメニューとなっています。春はツワの皮むきや筍の処理等利用社の出番が多くなります。干し大根も上手に作ってくれます。	地産地消を心掛け、旬の食材を使った手作りの食事を提供している。差し入れでもらった野菜で、紫蘇ジュースや干し大根等を利用者と職員と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の目安は一日が単位ですが、食事は2-3日を目安として、栄養のバランスを考えています。食欲のない人に対しては、その原因をまず考えるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	他者に口腔内を触られることに強い拒否のある人にはそばで職員と一緒に歯磨きをするなど、一人一人に合わせた清潔保持を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化してもトイレでの排泄が可能なよう、支援しています。また、リハビリパンツへの移行も十分に状態を検証してから行うようしています。	一人ひとりのタイミングに合わせて、声かけ誘導をおこない、トイレでの排泄を基本に支援している。夜間のみオムツを利用する人もできるだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬剤に頼らずに便通がスムーズであるよう、手作りヨーグルトや野菜等を多くとってもらっています。歩行訓練や体操などが楽しみながら行えるよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度化により、職員2名対応の入浴支援もあり、その人の状態に応じた対応をしています。総じて入浴嫌いな人が多く、あの手この手で誘っています。	週2~3回の入浴を基本に支援している。入浴を嫌がる人も、タイミングを計って声かけ誘導し、週1~2回入浴している。入浴できない時は、部分洗浄や清拭をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒がりな人、暑がりな人とそれぞれに合わせた個室の室温設定や、ホールでの席の配置等に配慮するほか、眠れない人の話し相手になったり等、安心感の中での睡眠が確保できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より、薬剤の知識を学ぶとともに、症状の変化があれば、主治医に伝え、適切な処方につながるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で、お楽しみ会等が規制される中、少しでも生活に彩りが出るよう、季節の風物の壁画作成や回想法の充実等の支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出はあまりできていないのが実状です。周囲の散策や、庭の草花の手入れ等で気分転換を図っています。	人込みを避けて、近くのダム湖へのドライブや、近所を散歩している。庭の桜や紅葉などを眺めながら、季節の移ろいを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、金銭の管理ができない人が多数であるが、「もっているだけで安心する」という人には、なくさないよう見守りを行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をもっている人には、充電を行い、何時でも使用していいですよと声掛けし、家族との交流を支援しています。固定電話の使用や手紙を書きたい人には、便箋・封筒・切手の用意、投函までを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計にあたり、共用空間に最も注力しました。大きなガラス等の木材の多用と、ベンチも人の目を気にせず、腰をおろせるように配慮しています。	大きな梁のあるリビングは、静かで落ち着いた空間となっている。窓から馴染みのある山々の風景を眺めることができる。室内で過ごす時間が増えたため、季節感のある貼り絵を全員で作成し掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや、畳室のこたつ等、季節や気分によってくつろげるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、できるだけ使い慣れたものをもってきてもらうよう家族にはたらきかけています。自室で過ごすことを好む人には、不潔にならないよう配慮しながら、落ち着いて過ごせるよう支援しています。	自分の部屋で居心地よく過ごせるように、テレビや机、時計等、使い慣れたものを配置している。居室の入り口に、小さな暖簾をかけ、自室への目印となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	馴染みの家具や置物は、手入れや補修を繰り返しながら、「新しくなって、わからなくなった」ことがすくなくて済むよう工夫しています。ものの置き場所も不便はあってもできるだけ変えないようにしています。		